

## 胆石症、胆嚢炎、総胆管結石

胆嚢結石症に対しては腹腔鏡下胆嚢摘出術を基本術式としています。状態により術後2-3日での早期退院が可能です。また急性胆嚢炎に対しては、発症後72時間以内の早期手術が診療ガイドラインで推奨されておりますが、当科では急性胆嚢炎の早期手術においても腹腔鏡下胆嚢摘出術を第1選択として良好な成績を収めております。また、最近、単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術(SILS)も導入しました。結石が総胆管に存在する総胆管結石では、経口内視鏡による結石除去が試みられ、内視鏡で摘出できない場合は通常、開腹手術となりますが、当科では総胆管結石に対しても腹腔鏡下に胆嚢摘出と同時に総胆管結石除去術も行い、必要入院期間を短縮しております。腹腔鏡下の総胆管結石手術は単なる腹腔鏡下胆嚢胆嚢摘出術よりも高度な技術を要し、どこの施設でも行っている治療ではありませんが、当科ではいち早くこの領域の腹腔鏡下手術を導入し、多くの手術経験を有しております。